

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（分担研究報告書）

視覚障害者の医療機関受診において必要な合理的配慮についての啓発資料作成に関する研究

研究代表者 八巻知香子 国立がん研究センター がん対策研究所 室長
研究分担者 河村 宏 特定非営利活動法人支援技術開発機構 副理事長
研究協力者 原田 敦史 堺市立健康福祉プラザ 視覚・聴覚障害者センター センター長
研究協力者 山内 閑子 産業技術総合研究所 SOMPO-産総研連携研究ラボ 研究員
研究協力者 長谷川 薫 のこのこデザイン
研究協力者 羽山 慎亮 国立がん研究センター がん対策研究所 特任研究員

研究要旨

先行研究で作成した資料ならびに本研究でコロナ禍に特化した状況について作成した資料を統合して、「医療従事者のためのサポートガイド」として、医療者に対する視覚障害の理解啓発のためのリーフレット「視覚障害のある方が病院に来院されたら」を作成した。視覚障害の個別性・多様性をどのように伝え、どのような場面でどのような工夫や配慮を説明するかということが大きなポイントとなった。

障害者に対する合理的配慮についての医療者向けの研修は本研究班でも取り組んだところであるが、今後も継続的に理解啓発ができるよう、実践や提言をおこなっていくことを今後の課題とする。

A. 研究目的

視覚障害者が医療機関を受診するにあたっては、移動や情報提供に適切な配慮が提供される必要があるが、どのような配慮が必要であるのか、またそれをどのように提供すべきであるのかを知らない医療者も多い。

本研究班では、令和2年度に、研究代表者らが先行研究班（科学研究費補助金17H02618：障害者への健康医療情報提供のあり方とヘルスリテラシー概念の再検討に関する研究）において作成した、「医療従事者の見えにくい方へのサポートガイド」（以下、平時版）を更改し、新型コロナウイルス感染症罹患時の隔離状況を想定した、「医療従事者後支援スタッフのためのサポートガイド：視覚に障がいのある方が新型コロナウイルスに感染し入院したら」（以下、コロナ版）を作成した。コロナ版の作成にあたっては、「署名方法についての説明」「目印・表示の工夫」「環境設定（通路に物を置かない）」などの要素を追加し、全体として配慮事項のポイントをカテゴリごとにまとめて表示する工夫を追加した。

令和5年度には新型コロナウイルス感染症による行動制限も解除され、コロナ対応に特化しない、平時版の活用が適切な状況となった。そのため、コロナ版作成時に充実させた工夫を平時版に反映し、資料をより適切・充実したものとする事とした。

B. 研究方法

「医療従事者のための見えにくい方へのサポートガイド」ならびに「医療従事者と支援スタッフのためのサポートガイド：視覚に障害のある方が新型コロナウイルスに感染し入院したら」の要素を網羅できるように、構成を含めて全面的に改定した。

（倫理面への配慮）

本研究は資料の作成であり、個人情報などを扱うことはなく、特記すべき事項はない。

C. 研究結果

作成した資料はコロナ版の作成プロセスをうけて、配慮事項のポイントを各場面でカテゴリごとに

まとめて表示する工夫を行った。各場面においては、「受付」「診察」「階段」「ナースステーション」「病室」「検査室」「薬局」「会計」が設定された。これらの場面は、受付からの流れに沿って場面をレイアウトし、具体的な声掛けや誘導の例をイラストとせりふ入りの吹き出しで表現する等の工夫を行い、実際の利用場面を想起しやすい構成とした。個々の説明においては「誘導の方法」「段差での誘導」「病室の位置」「目印・表示の工夫」「診療時の配慮」「同意書の署名」「トイレでの目印」「目で見たものを音声で説明する」の項目を設定し、視覚障害のある人が必要とする配慮が網羅できるように構成した。

1) 表紙

平時版：

- 表紙には視覚障害者の不安についてセリフにて図示
- 健全な見え方と視覚障害者の見え方の紹介

平時版の改訂版：

- 表紙には視覚障害者の不安と医療者の戸惑いについてセリフを含む図示
- 視覚障害者の見え方（障害の程度や症状）が一人ひとり異なることや困難なことの紹介

2) 内面

平時版：

- 誘導時にやってはいけない例の提示
- 階段や段差での声掛け
- 誘導時の声掛け（初対面時、椅子に案内するとき、斜めや曲線の移動時、狭いところを移動するとき）
- 案内表示の例示
- 代読や代筆、同意書などの書類への対応
- 音声による説明（検査：検査の流れや所要時間の目安など、食事：食事メニュー内容やクロックポジションを使っての説明、会計：硬貨と紙幣ごとに説明など）

平時版の改訂版：

- 必要なサポートを本人に確認することの必要性
- 「受付」「診察室」「検査室」「階段」「ナースステーション」「病室」における、視覚障害者が日常的に感じている困りごととそれへの対応に必要な配慮
- 移動時のサポートや目で見たものの音声による説明

3) 裏表紙

平時版：

- 相談先（点字図書館、全国視覚障害者情報提供施設協会）の紹介
- 障害者差別解消法の説明
- 視覚障害者の患者さんやご家族向けのがん・糖尿病・肝炎の音声版の資料の紹介

平時版の改訂版：

- 位置の説明や書類内容の説明、署名方法の例
- 「薬局」「会計」の困りごととそれへの対応に必要な配慮
- わかりやすい言葉のポイントの説明

D. 考察

本研究班で別途作成した「ろう・難聴者（聴覚障害者）の方が病院に来院されたら」「知的・発達障害のある方が病院に来院されたら」においても各障害の多様さが伝えられているが、視覚障害の場合にも個別性があり、視覚情報を主として音声や触覚等で伝える方法に置き換えることが重要である。どのように音声で伝え、どのような工夫や配慮を行うかを具体的に例示することが大きなポイントとなった。

障害者に対する合理的配慮についての医療者向けの研修は本研究班でも取り組んだところであるが、今後も継続的に理解啓発ができるよう、実践や提言をおこなっていくことを今後の課題とする。

E. 結論

本研究では、医療者が視覚障害のある患者のことを理解し、患者が安心して受診できるよう、医療者向けのリーフレット「視覚障害のある方が病院に来院されたら」を作成した。作成にあたっては本研究班で議論をおこない、視覚障害者への対応として最低限知っておいてほしいことを盛り込んだ。

視覚障害についての理解啓発の一助となることを期待し、視覚障害者への合理的配慮が当たり前におこなわれるよう、本資料を教材とする研修等により普及をめざしたい。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし